

はんしんおたのしみ



写真・文 山田哲也

33

野坂昭如著「火垂るの墓」は、第2次世界大戦中の西宮と神戸が舞台。この小説に登場するホタルが舞う池が「ニテコ池」（西宮市満池谷町）だ。

小説では、神戸大空襲で焼け出された14歳の清太と4歳の妹節子が西宮の叔母宅に疎開する。近所の家で

ニテコ池

風呂に入れてもらった後、二人は池に立ち寄り、たくさんホタルを見る。しばらくして叔母の家を出て、池のそばにある洞穴で兄妹二人の生活を始める。栄養失調のため節子が亡

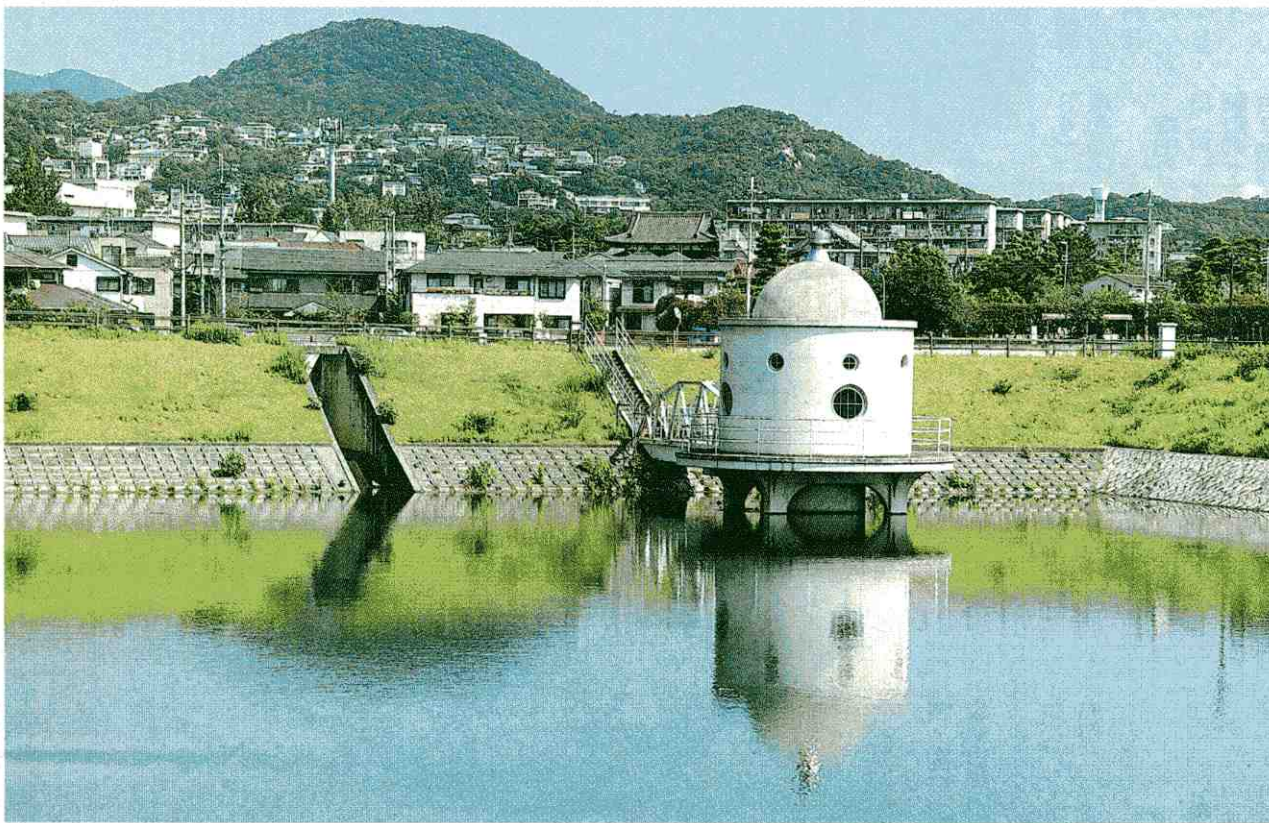
と呼ばれるようになったと言う。同池は西宮市水道局の貯水池。阪神・淡路大震災では甚大な被害を受け、三つの池を区切る堤防が崩れた。一番南側の池の堤防が決壊寸前になり、二次被害を食い止めるため緊急放流が行われた。昭和初期に建てられた中池の取水塔も被害を受けた。桜の名所として市民に親しまれた桜並木も崩れ落ちた。

被災した取水塔は翌年には元の形に復元された。改修された堤防には、震災復興記念の桜が植樹された。以前のように桜の名所になるのは数十年かかるだろう。

阪神西宮駅から阪神バスで「満池谷」下車。



兄妹が見つめたホタル



「火垂るの墓」の舞台となったニテコ池だが、今はホタルを見ることができない。白い円筒形の建物が復元された中池の取水塔